



高知は最初、織田一門の織田信澄の娘を妻にしますが、のちに織田家家臣の毛利秀頼の娘が後妻に入ります。秀頼は、当時、信濃国飯田城主でしたが、文禄2年（1593）、朝鮮での戦傷がもとで亡くなり、娘婿の高知が若干21歳で飯田10万石の領主になります。

さて、「飯田」といえばリンゴをイメージする南信州伊那谷のおだやかな小京都です。戦国時代、それほど重要な土地だったとは思えません。しかし、飯田は、西の木曽山脈と東の南アルプスに抱かれ、山々が育む良質な森林地帯の中心都市です。秀吉の大坂築城では、高知が差配して飯田から木材が上方に運ばれています。江戸時代には、飯田周辺は幕府直轄地となり、飯田に代官が置かれ、彦根城など相次ぐ天下普請の木材供給地となる物流の拠点です。

次に述べる兄高次が、信長・秀吉の近江支配にとって重要な大溝城（高島市）・八幡山城（近江八幡市）・大津城主を歴任したのと同様、高知も若年ながら豊臣政権の要地を任せられていたことがわかります。

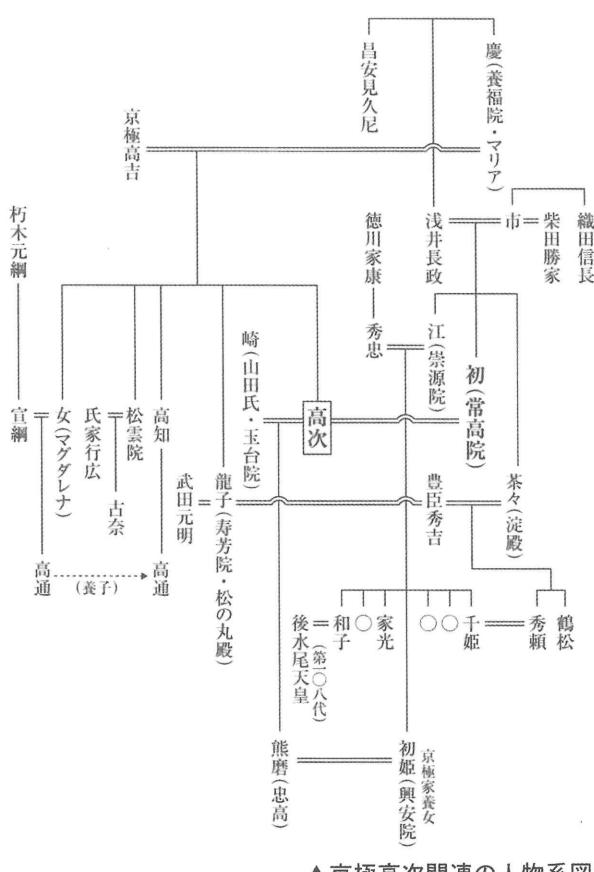
慶長5年（1600）6月18日、上杉討伐に向かう途上、家康が大津城に立ち寄り高次・高知兄弟と膳を共にします。高知はそのまま家康に従い、8月23日には岐阜城搦手攻略に一番乗りの功名を立て、関ヶ原本戦では、東軍左翼第二陣として藤堂高虎隊とともに宇喜多秀家隊と交戦し、午後には大谷吉継隊を撃破します。戦後、高知は丹後一国12万3000石を拝領します。

## 兄・京極高次の戦い

慶長5年（1600）9月15日、東西約17万の大軍が対峙した関ヶ原の戦いは、たった半日で東軍の勝利に終わりました。東軍の主力として奮戦した京極高知は、そのまま街道を西に疾駆し、長浜から合図の狼煙（のろし）を上げさせ、遠く琵琶湖を隔てた大津城の兄高次の安否をうかがいますが、返信はなく、落城疑いなしと肩を落としました。



▲関ヶ原合戦図屏風（○印京極高知軍／提供：関ヶ原町）



▲京極高次の関連の人物系図

さて、関ヶ原の戦いは、ひとり関ヶ原だけではなく、全国各地で多くの前哨戦や同時戦、後日戦がおこなわれました。丹後の田辺城籠城戦や真田昌幸が上田城で徳川本隊を止めした戦いが有名ですが、京極高次の「大津籠城戦」は、東軍にとって最も重要な局地戦となりました。

高次は、妹竜子が秀吉の側室になったことから豊臣家の親類大名として歩みます。天正15年（1587）、九州島津攻略の軍功で大溝城1万石（高島市）を拝領、18年には小田原攻めの功により八幡山城2万8000石（近江八幡市）、文禄4年（1595）大津城6万石の城主となります。ここで重要なことは、高次

が琵琶湖水運を掌握する重要な城主を歴任したことです。大溝城は古代から北陸・山陰の物資が集つた勝野津にあり、八幡山城は二代目関白豊臣秀次が築いた近江の拠点、大津城は、京・上方への人や物資を集積した最も重要な港でした。さらに、文禄4年には佐和山城10万石（彦根市）への転封計画があったことが知られています。佐和山城も内湖と湖に面し、東山道（中山道）を抑える交通の要衝です。また、名門京極家を近江に置くことで、近江の武士団も豊臣家に従います。

妻初の姉は豊臣秀頼の母、妹は徳川秀忠の妻である高次の立場は微妙です。慶長5年6月18日、上杉攻めで東上する家康が大津城へ立ち寄り、密約を交わします。しかし、西軍のど真ん中に位置する大津城を死守するのは難しく、高次は8月10日兵2000人を率い、加賀前田氏（東軍）を攻めるため西軍方として出陣します。

行軍は遅々として進まず、9月1日ようやく東野（長浜市余呉町）に到着したところで、突如反転。塩津浦から琵琶湖を渡り、翌日大津に帰着して、兵糧米などの貯蔵、粟津と逢坂に防御柵を設けるなど籠城戦の準備に入ります。敵の利用を避けるために城下町と三之丸侍屋敷を自ら焼き、京町口などを掘り切り、諸将を配置します。さらに大津の船仲間は、大津への軍勢の帰還を助け、籠城戦にも加わります。高次には武略もあり人望もあったようです。

西軍の大将は毛利元康。「鎮西一の武士（もののふ）」とよばれた立花宗茂や筑紫広門など総勢約1万5000人（軍記物では4万人とも）、湖上からは増田水軍が包囲。対する大津城はわずか3000人です。

12日外堀が埋められ、立花軍は長等山から大筒で攻撃。翌日には三の丸・二の丸に攻め込まれ大津城は裸同然になります。14日、さすがの高次も淀君の使者を迎えて開城を決意します。高次は大津城退去のときに、長浜城からの狼煙を確認しています。「東軍の勝利を知り安堵すればども、開城を決めた以上是非もなし」。高次は三井寺で剃髪し、高野山へ退去します。まさにこの日、関ヶ原では東軍が勝利しました。

家康は、20日に本丸だけが残った大津城に入り、西軍1万5000人と京・大阪の軍勢を関ヶ原に向かわせなかつた高次の功績を高く評価し、若狭国一国8万5000石を与えます。こうして、高次・高知兄弟は、若狭・丹後の国持大名として並び立ち、京極家の復興を果たします。（高橋順之）



▲大津城籠城戦概要図（『大津の城』）



▲大津城復元図（提供：成安造形大学）